

## 論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	橋本和典
Smoking bans in mental health hospitals in Japan: barriers to implementation 日本の精神科病院における禁煙状況と禁煙化への障壁についての考察			

### 論文内容の要旨

精神障害者では一般に比べて喫煙率が高いことが報告されている。発癌、血管障害といった喫煙による人体への有害な作用は明らかであるにもかかわらず、精神科病院においては喫煙を、精神症状を和らげる比較的好ましい嗜好品と考える独特の文化があり、様々な場面において精神科での喫煙は寛容にみられてきた。しかし、精神疾患の有無にかかわらず、喫煙による健康被害を鑑みると、一般と同様の禁煙対策が行われるべきと考える。今回の研究では、日本の精神科病院の禁煙状況、および敷地内禁煙に対する考え方を調査するために、2013年3月、1242の精神科病院の院長宛にアンケート用紙を郵送し、その結果について検討を行った。

49%(612病院)の病院から回答を得た。回答のあった病院のうち、24%で敷地内禁煙が、14%で建物内禁煙が行われていた。敷地内禁煙の導入をためらう理由として、入院患者の精神症状が悪化すること、隠れ喫煙が増えることへの懸念が、敷地内禁煙を実施していない病院のそれぞれ46%、65%で認められた。しかし、すでに敷地内禁煙を実施している病院では、実施後に生じた問題点として「精神症状の悪化」「隠れ喫煙の増加」を挙げた病院はそれぞれ2%と30%であった。他に、「職員の反対(21%)」「病院周辺での喫煙が増える(46%)」といった懸念が挙げられた。

過去の報告によると、精神科病院の禁煙化の際の障壁として、患者の精神症状が悪化することへの懸念や職員の反対が挙げられている。アンケート結果からは「精神症状の悪化」に関しては、敷地内禁煙を施行後、顕著な問題が生じないことが分かった。他のグループによる研究からは、職員が反対する要因としては職員の喫煙に関する知識不足が関与しており、職員の教育が成功の鍵となることが報告されている。

受動喫煙から完全に守る方法は、全面禁煙しかないといわれており、特に閉鎖病棟では常に受動喫煙にさらされる危険性が高く、精神科病院の禁煙対策は重要な課題である。今回、我々は日本の精神科病院で敷地内禁煙を行う際にはいくつかの障壁があることを示した。しかしながら興味深いことに、精神科病院での禁煙化を推進する上での障壁は予想外に小さいことが明らかとなった。本研究は、日本の精神科病院での敷地内禁煙促進への一助となるだろう。